

芸豪烈伝その29

あずまや・えんだいじょう
東家燕大丞
東家栄子

「お里・沢市」夫婦がかもし出す

深遠な人生の味

写真・森幸一ほか 文・おさだ衛



あずまや・えんだいじょう 本名・桜井幸次郎。1917（大正6）年、茨城県大洗町生まれ。80歳。大正15年、10歳で東家楽燕に弟子入り、芸名は東家燕坊と命名され浅草の有楽館で『安兵衛の生い立ち』を読んだ。昭和5年に「燕大掾」と改名。昭和12年、20歳で看板披露、ここで「燕大丞」とする。以後、全国を巡業して活躍。昭和28年ころ浪曲界を去り昭和46年にカムバックした。十八番は『村上喜剣』『出世の白餅』『アラビヤク』ほか。

豪快で艶やかな節で鳴らした東家燕大丞だが、耳が遠くなり現在は舞台を離れている。燕大丞に連れ添うこと54年、燕大丞の合三味でもあった東家栄子は曲師としては現役最古参だが、まだまだお元気だ。お二人を神奈川県は相模原市のご自宅に訪ねた。

「山で育った山葵でさえも縁ありや刺し身のツマとなる、は浪曲の名言句。『苦劳しました。ですが今は幸せですよ。3人の子供も独立して嫁さんがい



昭和13年、故郷の大洗町での真打ち披露。前列中央の懐手が東家燕大掾、21歳の若さだ。右が師匠の東家楽燕。左隣りが二代・東家三楽。楽燕は桃中軒雲右衛門の芸養子でもあった名人。豪放な節調と「泣き節」で一世を風靡した。

て、孫もいます。平凡が一番いいんですね」というのは東家栄子師匠。「私は師匠・楽燕の忘恩の弟子です。実の父のように慕っていた師匠に申し訳がない」と語るのは燕大丞師。

昭和28年ころに当時、芸能界に蔓延していたヒロポン中毒にかり健康を害し、浪曲界に復帰するまでに20年ちかくの空白期間があった。その時期を浪曲に精進していれば、と燕大丞師は後悔しているのだ。

燕大丞師は戦前の日本人の徳目を兼ね備えている。謹厳で実直、勤勉、謙虚さ。この取材も音吐朗朗、舞台と同じくよく響き渡る声で誠実に応対していたのだ。

燕大丞師が入門し活躍した時期は浪曲の黄金時代だった。

師匠・楽燕の家（東京の根岸）には15人からの弟子と女中が3人もいたこと。昭和4年14歳、芸どころの名古屋で「とろくせー、おきやーせ」と客に蹴られた（受けない）こと。昭和17年、東条（英樹）内閣組閣1周年記念で閣僚の前で「村正改心録」を語ったこと、などなど。ひとつひとつの話がまるで小説のような面白さだ。

「浪花節はタンカがうまくないと、いけません。節がメインですが節は肝心のところだけで唸るのが効果的なんです」

師匠・楽燕（昭和25年没、64歳）の

位牌を自宅の仏壇に飾り恩師の後生を毎日、願う姿は尊い。

「師匠からは芝居をたくさん見て勉強しなさいと教えられました。それと、口演中、ひとりでもお客さんを立たせたら恥だとも、さとされました」

東家栄子は本名・桜井栄子、東京は浅草うまれの江戸っ子だ。学校を出て当時の花形職業だったバスガールになり、同じ会社勤めの上村五郎（楽燕が主宰する日本浪曲学校の出身の浪曲家）と結婚。夫の合三味になるべく三味線を猛稽古した。

のちに上村は病死し、昭和18年、燕大丞師と再婚した。

「このひとが故郷の大洗に子供と一緒に帰って療養生活を送っているとき、私は曲師として働いて仕送りをしまし
てね。苦勞しましたよ」

栄子師が夫や家族に献身的な様子が伝わってくる。栄子師は81歳。「ひと



昭和18年、燕大丞師と結婚した栄子師のあでやかな花嫁姿。みずみずしさと可憐さは、いままも衰えていない。

つ年上の女房はカネの草鞋を履いてでも探せ」という諺の正当性がここでも証明された。

現役で活躍できる健康の秘訣は、「いご（動）いていることですかね。忘れん坊で、おつちよこちよいなの、私って。嫌なことがあつてもよくよくしない性分ね。

曲師もね、生涯、勉強ですよ。太夫さんとの戦いですよ。でもね、三味線のいい手を覚えても私は頭がわるいから、すぐ忘れちゃうの。あははは」

栄子師から見た燕大丞師は、「生一本で欲がないんです。社交性が



剛直な夫と、よく気がつくかいがいしい女房。借老同穴（かいるとうけつ）の言葉が似合う。

なくて、わがままで気むずかしいんですよ」

燕大丞師に好きな言葉を聞くと、「それは和です」

すかさず栄子師が、「よく言うわよ。おかみさんにだけは和はないのよね」

と呼吸もピッタリ。54年の夫婦の味だ。「お里・沢市」の金婚式を過ぎた姿を見るような思いだった。



栄子師はいまは澤孝子（写真中央）の合三味で、若手の曲師の指導もしている。7月13日（日）浅草・木馬亭にて「第9回 浪花ぶし・澤孝子の会」では3席、弾く。（写真左は構成演出を担当する作家の大西信行氏）

浪曲

32
52

これほどすばらしい芸は他にはないと
思います。

浪曲家の皆さん…頑張ってください。
多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉